2011 年 5 月 31 日発行

KOCV news

発行：青年海外協力隊神奈川県OB会／畦地 崇敬

http://kocv.jp　e-mail:info@kocv.sakura.ne.jp

3 月 11 日未曾有の地震が東日本を襲い。あろう事か青年海外協力隊の募集にまで影響を及ぼしています。日本がこんなに大変な時に、何で海外へ援助に行くんだ。少なからず、投げかけられます。今回の震災でもわかったことの一つに日本と海外とのつながりは考えている以上に深い、日本単独では成り立たない、ことがあげられるかと思います。 海外からの暖かい声援も含めて、協力隊事業を縮小することは、なにか違うのではないかと常々感じています。

本郷台のあーすぷらざで、いよいよ JOCA が指定管理をスタートさせました。常時、イベントを行なっているようですので、覗いてみて下さい。

港南国際交流ラウンジ祭りへの出展について

畦地崇敬（H14-1／ブルキナファソ）

２月27日（日）（10：00～14：30）は、横浜市の上大岡駅内、港南国際文化センター４階ひまわりの郷ホールにて『第 12 回港南国際交流ラウンジ祭り』に KOCV として出展しました。KOCV は港南国際交流ラウンジの登録団体ですが、この年に一度のお祭りに参加するのは今回が初めてとなります。

今回は、団体紹介と食販（手作りクッキーの販売）を行います。食販ブースでは調理ができないため、今回初めてクッキーをスタッフ数名で手分けして作りました。クッキーは３種類、ノーマルとコーヒー味と紅茶味です。砂糖とコーヒー、紅茶はそれぞれフィリピン、ペルー、インド原産のフェアトレード商品を使用しました。私にとっては慣れないクッキー作りであったので、２週間前にみんなで練習を重ねてから今回精魂こめて作りました。

お祭りでは外国の方々の日本語スピーチ大会や、世界の歌&ダンスが楽しめました。

小田原見学ツアー 実施しました

小島海治（H10-1／トンガ）

2011 年２月 19 日（土）、例年通り、神奈川県国際研修センターに研修に来ている外国人研修生にも呼びかけ、参加してもらい、KOCV の家族や友人他、東京 OB 会 会長の羽熊広太さん（彼には外国人への通訳をしていただき大活躍でした）も加わり、大盛況のツアーになりました。

最初の訪問地は、鈴廣かまぼこ博物館。都合により、体験はできませんでしたが、見学の他、試食、お土産等のショッピングができました。

次は、小田原市内にある老舗「だるま料理店」での昼食。天ぷらか寿司を選び、食べました。

その後、すぐ近くの市民会館で、お菓子展をやっていたのでそこを訪問。珍しいお菓子や、お菓子による作品を見学し、試食やショッピングをしまし た。

次に、小田原城見学。天守閣に入りました。時間があれば、隣接している歴史見聞館にも行きたいところでした。

そして、最後の訪問地アサヒビール工場へ。休日のため、操業はしていませんでしたが、ガイドさんによる約1時間説明を受けて回り、その後今回の ツアーの目玉であるビールの試飲を楽しみました。

２年ぶりの見学ツアーでしたが、今回は遠出をし、時間的に全部計画通り回れるか不安はありましたが、予想以上に道路が空いていて、移動に時間が かからず、スムーズに計画を実施することができました。参加者は、例年以上に多く、盛りだくさんの訪問地に大いに楽しむことができ、大成功だったと思います。

今回の見学ツアーに際して、高野さんによる募集のチラシ作りなど、多くの人に協力していただいたことを心より御礼申し上げます。

KOCVパッケージ活用プロジェクト

女性グループ Jigeen nu farlu（仕事にやる気あふれる女性たち）による女性教育プロジェクト活動報告

飯山 香（H16-2／セネガル）

活動地のケベメールは町として商業が盛んだが、畑を持たずに小売業に従事する人々も多く、出稼ぎによる男性の人口流出がある地域。2004 年から 2006 年に村落開発普及員として派遣され、女性グループの立ち上げから端切れによる縫製訓練、商品開発、隊員間協力による商品開発コンテスト などの協力活動を行ったことから今回のプロジェクトは立案された。

内容は新たに学ぶ意欲のある女性たちにとって、研修が可能となるように、また持続的に縫製技術が伝承されていくことを期待して、計画・実施され ること、そのための機材購入、ミシン設置、運営会議、研修生登録等を行った。

今回の支援活動を通して、信頼関係を国際協力の基礎として協力を進めることの有用性を感じた。それは二年間を現地で過ごした帰国隊員だからこそ できる国際協力の形であると考えられる。滞在期間が短期間にもかかわらず、女性たちと効率的な活動ができたことは、信頼関係ゆえである。大きな国 際協力という流れの中で民と民でつながり、お互いに友として協力活動を進められる素晴らしさを感じた。女性グループのリーダーは、協力活動を終え た外国人は、帰国後さっぱりとセネガルのことを忘れてしまうものだが、帰国後も日本と繋がっていられることに感謝している、と話してくれた。

また、自分たちで活動を始めてからの生活は、自分の生活諸費用を人に 金の無心をせずに暮らせている、嬉しく思う、とも話してくれた。

報告活動としては、2011 年２月 11 日（金）、12 日（土）に JICA 横浜で行なわれる “よこはま国際協力フォーラム 2011” で神奈川県青 年海外協力隊 OB 会から今回の活動内容について発表を予定している。

よこはま国際フォーラム無事終了

セネガル現地調査帰国報告会 ～布カバン一つが、セネガルのお母さん、日本人、セネガルの子ども達の笑顔を繋げる～

中西雅美（H6-3／パナマ）

2011 年２月 12 日（土）13 時～ 13 時 50 分に行われていたよこはま国際フォーラムでのセミナーが無事終了いたしました。セネガルの飯山 OB と OG 夫妻による、関わっている女性グループの紹介、彼女たちと行おうとしているプロジェクトの紹介、実際の商品などの話、クイズや、セネガルのカラフルな端切れを使ったボタン作りといったワークショップを含んだセミナーはとても反響がよく、また同時に開催した協力隊ナビは、セミナー前後 1 時間みっちりと話しができ、時間が足りないくらいでした。

一般の方 20 名で会場がいっぱいになり、アンケートは 18 名に記入していただきました。参加者は、男性６名、女性 12 名、年齢は、10 代7名、20 代３名、30 代３名、40 代３名、50 代２名、住まいは、横浜市在住 11 名、その他７名でした。セミナー情報源は、知人から８名、OB/OG から１名、インターネット１名でした。その他には、会場や学校、ユニセフからのちらしといったものがありました。同行者は、ひとりが7名、友人が８名、家族２名、OB/OG が１名でした。セミナーの満足度は良い 12 名、まあ良い３名、無回答３名でした。

よかったことは、セネガルについてクイズなどでいろいろ知れたこと、セネガルの端切れを使ったワークショップがあったことなど多数コメントをいただきました。また、感想としては、フェアトレードの価格が高いことに疑問を感じる、物を作ることの大変さを感じた、今後とも活動をがんばってください、などコメントが寄せられました。

参加者において、10 代が約４割と多かったことや、ひとりで参加されている方が約４割いたことが意外でした。情報源の中には学校で知ったという 10 代の参加者がいたこと、よこはま国際フォーラムの広報が若者にも届いていることがわかります。また、ユニセフからのちらしといった、よこはま国際フォーラムの広報が行き届いていたことも推測できます。２日間の講座参加者はのべ 1310 名にも達し、神奈川新聞でも取り上げられました。

OB 会担当者としては、OB/OG のメーリングリストとフェアトレードショップでの広報、口コミでの大学生へのよびかけを行い、7名ほど来てくれましたが、よこはま国際フォーラム自体の広報力のおかげで、さまざまな年齢や OB/OG に関連しない方々にも参加していただけました。

今後も、OB/OG の活動を知っていただけるよう、よこはま国際フォーラムに参加できればと思います。

セネガルプロジェクトを説明する飯山OBとOG夫妻

【神奈川版】社会還元スキルアップセミナー開催いたしました

～あなたのボランティア経験、社会にどう生かしますか～

山川　萌（国内協力推進員／ベネズエラ）

帰国後、就職活動やボランティア活動などで自分が任国で体験してきたことを伝える機会はあるものの、「なかなか相手にわかりやすく伝えることは難しい!」と隊員 OB は皆感じています。（よね?）

１月 29 日（土） 9：20 からのセミナーでは、午前中に JOCA の渡具知　愛里を講師に「ボランティア体験をわかりやすく伝えるノウハウ」、午後は 19ー4 コスタリカの船橋志摩子さんの出前講座実践と、帰国後横浜市に勤務している畦地会長と安養寺　智さんの「就職活動で活かす!」のトークを行いました。

報告 協力隊ナビ報告

高野忠裕（H7-1／ラオス）

よこはま国際フォーラムと同時開催にて行なわれました、ナビの報告をします。

日　　時：平成 23 年 2 月 12 日
時　　間：12：00 ～ 15：00（13 時から 14 時は国際協力フォーラム発表のため休止）（実質 14 時から 15 時）
会　　場：JICA 横浜 3 階　国際協力連絡室
参 加 者：12 名　ほとんどが口コミです。
スタッフ：6 名

・フォーラムを間に挟み、室の他団体使用時間の都合上、実質 1 時間の中で会場 12 席を上回る 18 名が入り部屋が慌ただしかった。
・特にナビだからどうだというわけではなく、いつもの活動の一環、延長線上で行う。
・セネガルのバックの販売。同、布を使って、牡丹を作った。
・広報は特に行わず口コミおよびフォーラム参加者が来場。

相談内容
・NGO 活動を行うに当たって、その助成金の種類や申請方法および性格など。
・学生や若い人達にとって、協力隊 OBOG に会う機会が少なすぎる。ほとんどが初めて会う人達。その為、上記機会を協働で企画する必要あり。等々

セミナー前後 1 時間みっちりと話しができ、時間が足りないくらいでした。簡単ではございますが、実感として、国際協力や協力隊に関心があるそうに対しても協力隊の広報が行き届いていないと感ました。今後とも継続的に行っていきたいと思います。

大入り満員でした

OB会への寄付金のお願い

神奈川県OB会は現在神奈川県内に在住の協力隊OB, OG約1600名で構成されています。これは日本全国47都道府県の中で東京OB会についで第二番目の規模です。そしてその運営にはお金が必要であり、現在のところJICA、神奈川県、そしてJOCAから助成金をうけて運営資金として使わせていただいております。一方、OB, OGの皆様からの寄付金も半年間で約22万円のご協力をいただいており、たいへん助かっております。寄付金は \1,500 ／口でお願いしております。同封しております振込み用紙を使って郵便局から振り込んでください。また、平日昼間の窓口からの振込みが困難な場合は、ATMからですと夜間、そして休日でもご利用できますのでよろしくお願いいたします。

寄付金納入者リスト（敬称略）

H22年12月～H23年4月末

ご協力ありがとうございます。収めていただきました寄付金は有効に使わせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

岩田　賢一	大槻　修子	小林　欣也	田中かつ子
八賀　伸治	藤井　　敏	藤井　澄子	市川　澄雄
三浦　喜勝	本田　維宏	内藤　幸彦	石立　敬一
川内　圭輔	神保　孝行	石渡　善雄	藤掛　洋子
辻　　征史	新井　康之	霜村　　忠	小島　海治
入部　和也	景山　克士	長瀬　　修	吉岡　祥子
三浦　洋子	岡村　義雄	金山　昌功	前田　裕司
長井　昭三	小松　照子	檜垣　明弘	柏崎　佳人
鈴木　宏尚	雑賀　雅人	森丘　貴宏	山口　　猛
若林　弥生	姫野　靖征	香月柳太郎	小林　裕三
徳永　達巳	山田　賀子	須賀　元泰	西島　睦宣
西川　知子	大平　達雄	藤井　克巳	宮田　　徹
田中　好広	田京　達也	塚田　尚三	岡田　歳幸

KOCV−freeMLの御案内

OV 会の活動に参加したいのだけど、どこで何をやっているかわからないと仰るあなた。国際交流や開発教育のイベントをやりたいのだけれど、OV に仲間を募りたいあなた。KOCVではメーリングリストを設置して、情報交換を行っています。寄付金振込み用紙の通信欄に申し込み方法があります（ML 登録のみも可です）。メールアドレスと隊次、職種、氏名を連絡下さい。ML 登録のみご希望の場合はホームページ（http://kocv.jp/）上のお問い合わせまで連絡を下さい。

総会案内

2011年度　青年海外協力隊神奈川県OB会 通常総会のご案内

今年も下記日程で総会を開催いたします。日程調整をして頂きできるだけ多くの協力隊OB・OGの方々に出席していただければ幸いです。

1. と　き：2011年6月25日（土）　13：15〜17：00
   ところ：JICA 横浜国際センター会議室
   http://www.jica.go.jp/yokohama/office/access.html
2. 進行
   第一部　青年海外協力隊神奈川県 OB 会通常総会
   13:30 ～ 15:00
   第二部　講演会　浅井　久仁臣（あさい　くにおみ）
   15:15 ～ 16:45
   （仮）「世界の紛争地から復興を学ぶ」
   17:30 ～　　懇親会

特別企画

浅井　久仁臣（あさい　くにおみ）講演会
（仮）「世界の紛争地から復興を学ぶ」

「包囲攻撃」「破壊し尽くされた街」「難民キャンプの笑顔の少年」「自由な往来を許さない隔離壁」「指導者アラファトとの友情」「阪神・淡路大震災」そして「東日本大震災」

戦場取材を続けてきたジャーナリストとして、震災後の復興に携ったヴォランティアとして、そして教育者としての視点から復興の過程を検証します。

そして、我々途上国で協力隊活動を行なってきた OB/OG が、未曾有の災害を前にして、これから何が出来るのか。すべきか。行動するためのきっかけにしたいとの想いで講演会を企画しました。

ぜひ皆様お誘い合わせの上、講演会だけでも構いませんのでご参加下さい。

プロフィール

岡崎市出身。1973 年、米国の「AP 通信」入社。1977 年 2 月、さいたま市に英会話スクール開校。フリーのジャーナリストとして、レバノン内戦を取材。1982 年、TBS の契約特派員として、レバノンの取材を継続。1991 年、TBS の報道局と社会情報局の特派員として契約し、湾岸戦争を取材。1993 年、数度にわたり旧ユーゴスラビア内戦取材。1995 年 1 月の阪神淡路大震災の救援活動で知り合ったメンバーと防災・災害支援ボランティア団体『ACTNOW（今こそ行動を）』を設立 (2006 年活動終了)。2002 年、戦火のパレスチナに入り、イスラエル軍の包囲下にあった（アラファト）議長府や虐殺疑惑直後のジェニン難民キャンプに潜入取材、TBS や TV 朝日の報道番組で発表した。その後、メールマガジン発行者、ブロガーとしての活動に移行。2003 年春、「メディア塾」を東京都内に開設。

著作　書籍

「レバノン内戦従軍記」（三一書房、1977 年）
「パレスチナは戦争館―硝煙の街角 15 年のグラフィティ」（情報センター出版局、1985 年）
「魔術的カケヒキ学―国際舞台で磨いた交渉術のノウハウ」（センチュリープレス、情報センター出版局、1986 年）

雑誌記事

「モロ民族独立闘争に栄光は」（「現代の眼」1976 年 6 月号）
「レバノン内戦を追って -1・2- タール・ザータルの殺戮」（「現代の眼」1977 年 3・4 月号）
「レバノン内戦を追って-3完-アブデル・ハミド氏に聞く--PLOはいまなにを望んでいるか / インタビュー アブデル ハミド ; インタビュー」（「現代の眼」1977年5月号）
「二極化進むパレスチナ解放運動 -- 協調路線に反発する青年層」（「朝日ジャーナル」1977 年 10 月号）
「外国勢力にほんろうされるモザイク国家レバノン」（「朝日ジャーナル」1978 年 7 月 21 号）
「中東・新たな対立の構造 -- またもイスラエルのお家芸電撃的『力の論理』/ 対談 牟田口 義郎」（「朝日ジャーナル」1982 年 6 月 25 号）
「ベイルート報告 アマル民兵（貧民武装集団）に虐殺されるパレスチナ難民 --TWA 機人質事件の陰で」（「Asahi journal」1985 年 8 月 2 号）
「ヨルダン川西岸地区ルポ -- 救急医療活動も妨害するイスラエル軍」（「Asahi journal」1988 年 3 月 18 号）

東日本大震災復興支援 チャリティーライブ・つくい逸店昼市

若狭健一（H9-1／パナマ）

「KOCV 使ってください支援金」の援助を頂き実施した「東日本大震災 復興支援チャリティーライブ・つくい逸店昼市」が無事に終わりましたので、ご報告いたします。

平成 23 年 4 月 30 日（土曜日）、会場となった津久井湖城山公園花の苑地（津久井湖観光センター）は、やや風が強く吹いたものの天候に恵まれ、延べですが約 800 人ものお客様が来場して下さり、大盛況の中でイベントを開催することができました。ステージでは、バンドやダンスなど、7 グ ループが出演し会場を盛り上げ、同時開催の「つくい逸店昼市（いつてんひるいち）」は、津久井の名産品などを販売し、多くのお客様で賑 わっていました。また、有志の方々が客席の一角にテーブルを置き、いち早い復興を願って、来場者の方々と力を合わせて千羽鶴を折りまし た。

KOCV のメンバーの當間さん、柳本さん、坂巻さん、そして私若狭の 4 人はステージでジャンベの演奏をしました。客席にも約 10 個のジャンベを置き、お客様と一緒に楽しく演奏をすることができました。会場内の募金 や実行委員会のフリーマーケット、つくい逸店昼市の売り上げの一部などを合わせ、84,846 円が義援金として集まりました。この義援金 と千羽鶴、更にライブの模様を録画した DVD は、相模原市を通じて相模原市の友好都市である大船渡市へお渡しします。今回のイベントは、復興に対してほんの小さな力でしかありません。しかし、多くの人々の気持ちがひとつになり、その思いが被災された方々へ届けば幸いです。KOCV をはじめ、津久井観光協会様、津久井商工会様、（公財）神奈川県公園協会様など、お力添え頂いた全ての皆様に感謝いたします。どうもありがとうございました。

神奈川に帰ってきました。歓迎会報告

小野栄子（H20-3／インドネシア）

20 年度 3 次隊、インドネシア派遣されていました、開成町在住の小野栄子です。1 月に帰国し、県庁を表敬した日の夜、神奈川県 OV 会の帰国歓迎会に参加させてもらいましました! 2 隊次合同の歓迎会だったので、帰国メンバーは 20-2 のシニアの方 2 人と 20-3 のジュニア 2 人、そして、神奈川県 OV 会の役員の方たちでした。派遣前の壮行会と比べ、こじんまりとした会でしたが、和気あいあいとした雰囲気で、楽しいお酒と美味しいチーズホンデュを頂きました。酒の肴はやはり任地での苦労話や面白ネタ。みんな様々なエピソードをかくし (?) 持っていました。

色々な方面で活躍されている OV の方たちがいるようなので、神奈川県 OV 会のネットワークを通して、日本で楽しいことが出来たらいいなと思っています。神奈川県 OV の先輩方、これからよろしくお願いします。色々な皆さんとお会いしたいと思っています。

追伸：今は横浜市栄区にあるあーすぷらざという施設で働いています。施設内のライブラリーには国際協力に関する資料も豊富で、協力隊 OV もたくさんおります。是非遊びにいらして下さい。

東日本大震災 被災OV支援募金　ご協力のお願い

青年海外協力隊OV各位　平成23年4月15日
ふくしま青年海外協力隊の会　会長　小 熊　則 子

3 月 11 日に発生した大地震により、東日本の広範囲において甚大な被害が発生しました。多くの方が被災し、今なお不自由な生活を強いら れています。東北各県の OV 会でこれまで確認できただけでも、20 名近くの青年海外協力隊 OV が自宅の全・半壊や、原発事故による長期の避難など厳し い状況に直面しています。

このような状況に、全国の協力隊 OV から被災地へ支援のお申し出をいただきましたので、下記の通り募金の窓口を開設することといたしました。被災した OV に支援金を送ることで、地域の復興支援に役立てたいと考えております。これまで地域の核となって働き、社会活動に参画してきた OV が、地元で再び生活の基盤を築き、地域社会の一員としてその役割を果たしていくことは、震災復興の一翼を担うものと考 えます。地元でがんばりたいと思う OV を、皆様の力で支えてくださいますようお願い申し上げます。

つきましては、趣旨をご理解いただき、下記の 要領にて募金にご協力いただければ幸いに存じます。どうか皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

記

1. **募金名称：**東日本大震災　被災 OV 支援募金
2. **発起人：**青森県青年海外協力協会　会長　大賀重樹・岩手県青年海外協 力協会　会長　矢萩花恵・宮城青年海外協力 協会　会長　小野寺学・青年海外協力隊秋田県 OB 会　会長　松橋秀男・NPO 法人山形県青年海外協力協会　会長　加藤和宏・ふくしま青年海外協力隊の会　会長　小熊則子
3. **募金受付額：**金額の多寡は問いません。皆さんのお気持ちで結構です。
4. **受付期間：**平成 23 年 4 月 15 日～ 6 月 30 日
5. **振込先：**ゆうちょ銀行・郵便局
   口座記号番号：02200−9−125804
   口 座 名 称：青年海外協力隊
   東北ブロック OV 会
6. **寄付先：**被災された OV に支援金を送ります。支援金の受給を希望する OV より申請書を提出いただき、被災状況を確認した後、受け付けた募 金総額を鑑み、支援金額を決定して該当 OV に送金いたします。（7 ～ 8 月頃を予定）今回の被災地は 15 余の都道県に渡っているため、支援金の支給対象は東北地方在住の OV だけでなく、全国の被災地に在住する OV とします。
7. **その他：**お預かりしたお金は、発起人 が責任を持って管理し、支援金受給を希望する OV に対し、別に定める支援金支給規定に則り、その被災状況 に基づいて公平に分配しま す。（支援金受給希望の方もご連絡ください。）神奈川県内で液状化などにより被災された方も対象になります。

会長　小熊　則子（H2−3、サモア、音楽）
携帯 090-8785-5963
メール　norikobear88@yahoo.co.jp まで連絡下さい。